

【区の年齢構成の推移】

単位:千人(%)

10年	26 (13.6)	145 (74.4)	23 (12.0)
	0~14歳	14~64歳	65歳以上
15年	25 (12.6)	145 (72.7)	29 (14.7)

※各年4月1日現在

人口・割合

52.7%

区の人口に占める労働力人口(103,948人)の割合。全市平均の49.5%より高く、10区の中で最も高い割合となっている。(平成12年10月1日現在 国勢調査)

14.7%

区の人口に占める65歳以上の高齢者の割合。全市平均の15.7%より低く、10区中2番目に低い。区民の平均年齢は40.3歳で2番目に若い。(平成15年4月1日現在 さっぽろ統計情報)

2,004人

平成14年中の区内の出生数(出生届出件数)。東区、北区に次いで3番目に多い。前年度に比べ27人、1.4%増えたが2位から3位に1ランクダウンした。全市平均は0.7%増。(さっぽろ統計情報)

年齢構成

急速に進む少子高齢化。白石区も統計数字にその傾向が表れている。

平成十年から十五年までの五年間で、六十五歳以上の老年人口が五千八百五十九人(25%)増えたのに対し、〇(十四歳の年少人口が千三百一十一人(5%)減った。また、十五~六十四歳の生産年齢人口は、百八十二人(0.1%)増と横ばい状態。グラフからも、老年人口の顕著な伸びが見て取れる。一方、出生届出件数の伸び率は、全市平均の倍となっているが、ここ数年1%台で推移しており、いつ減少に転じてとも不思議ではない状況だ。

78,833台

区内の乗用車保有台数。10区の中で4番目に多い。前年に比べ310台、0.4%増えた。原付を除く総車両数は128,873台。(平成14年3月31日現在 北海道運輸局資料)

自動車

区内における乗用車の保有台数は人口二・五人に対し一台の割合で、平成八年から十三年までの五年間で、全市が7%増加したのに対し0.6%(四百三十二台)増と横ばいだった。乗用車の普及率は、十区の中で二番目に高くなっている。

区内で普通免許や大型免許などの運転免許を持っている人は、平成十四年末現在十一万五千二百七十八人で、区民の57.8%。この割合は全市平均の56.8%をわずかながら上回り、十区の中では一番高い。男女比は男性が六割、女性が四割で、他の区とほぼ同様の割合となっている。

1,214件

平成14年の区内の交通事故発生件数。死者9人、傷者1,442人。いずれも前年より減少しており、特に事故件数は、平成11年をピークに3年連続で減少が続いている。(区市民部資料)

交通事故

区内の交通事故発生件数のピークは、平成十一年の千四百四十四件。その後三年間で百九十件(13.5%)少なくなった。

平成十四年の数字で見ると、区民百六十四人(全市は百五十七人)に一人が事故に遭い、百三十八人(全市は百二十八人)に一人が負傷した計算になる。区としては全市平均の割合より低くなっているものの、いずれも十区の中では四番目に高い。

また、全市の事故発生件数に対する割合は10.3%で三番目、傷者が10.0%で五番目、死者が11.8%で四番目に高い。

1,265,349m²

区内にある186カ所の都市公園の合計面積。札幌ドーム約23個分の広さに相当する。区民一人当たり6.3m²で、10区の中で狭い方から2番目。(平成15年3月28日告示 平成14年度公園告示面積資料)

公園

札幌市内には、街区公園や近隣公園などの都市公園が二千五百三十七カ所あって、その総面積は実に札幌ドーム三百五十個分に相当する約千九百三十二万七千平方メートルにも及ぶ。このうち区内の都市公園面積が占める割合は6.6%で、十区の中で二番目に低くなっている。

昨年四月には「白石南公園」(南郷通十六丁目南、一万九百八十四平方メートル)、今年六月には「さっぽろ大地公園」(中央一条一丁目、四万平方メートル)が新たに完成した。そのほか既存公園も順次再整備などで施設の拡充が進められている。